

CB事業者商品紹介

思い出の服に新しい息吹を吹き込む
お洒落を楽しんで、もっと元気に!

帯deバッグ1万円、
よみがえりファッショ
ンコート4万円、ジャケット3万円、



代表 須上 喜代江氏

服のリフォーム&デザインを手がける「アトリエキヨ」。体に部分的なハンディを抱える障がいのある方や高齢者もあきらめず、おしゃれを楽しんで欲しいと「アトリエ キヨ」の須上喜代江さんはバリアフリーファッションを提唱しています。ある日お得意様から、亡くなったお母さんの帯でバッグを作ることを依頼されました。一つの帯からオリジナリティ溢れる2個のバッグが完成、「帯deバッグ」と名付けました。完成した写真を見たお客様から、次々と注文が舞い込み現在順番待ちの大人気だ。帯の柄によっては、バッグのデザインがイメージしにくく、製作に大変苦労するそう。しかしお客様が喜んでくださるのが、一番うれしいと須上さん。



ジャケットによみがえった道行きコートと紗の帯で作ったバッグ

【お問い合わせ】 Atelier Kiyoko (アトリエ キヨ)

■事業区分[高齢者支援] ■住所 福岡市博多区新和町1丁目9-23-102
■TEL 092-585-0018 ■メール atelierkiyo@chic.ocn.ne.jp



美的な筆記具「ペパ鉛筆」。木やプラスチック製の筆記具に比べて感触がよく、滑りにくいといった新聞独特の使用感を楽しめます。



現在、福岡県内の京業・福岡・筑豊・筑後・北九州地域において発行・流通。

紙はもっと長生きできる
リサイクル新聞でオリジナルの鉛筆作り

「ペパ鉛筆」作り 出張講座 (講師料1万円+実費、10名超は追加10名毎に2千円)

NPO法人新聞環境システム研究所は、新聞のリサイクル活動を行っています。理事長の川上義光さんは以前新聞販売店を経営しており、配達した新聞が無駄に捨てられることに疑問を抱えていました。そこで読み終えた新聞を収集、その対価として地域通貨「ペパペパ」を発行する事業を2002年から開始。新聞1kgと引き換えに1ペパを発行し、30ペパたまると80円の公共交通機関割引券として使えます。

この活動に賛同する方が年間100人以上も増え、現在の登録会員は県内で1,610世帯にのぼります。回収した新聞を使った「ペパバッグ」に続き、2009年3月には「ペパ鉛筆」を考案。子どもからお年寄りまでが新聞を使って簡単に楽しみながら作れると評判です。ペパバッグもペパ鉛筆同様、出張講座を受け付けています。



新聞リサイクル活動の対価として地域住民に配布される地域通貨「ペパ」

【お問い合わせ】 特定非営利活動法人 新聞環境システム研究所

■事業区分[環境] ■住所 福岡市東区名島3-6-2 ■TEL 092-662-2226 ■FAX 092-661-2022
■URL <http://www.pepa.jp> ■メール info@pepa.jp

健康野菜「すいおう」のお茶を
リニューアル発売
品質改良で利用者の工賃アップ

「翠王茶」/30包 2000円
「翠王合わせ茶」/10包 500円

社会福祉法人 柚の木福祉会は、志免町地域を中心として、30年間にわたる知的ハンディのある方々に、生活作業訓練や自立支援などの福祉サービスを提供してきました。

「施設利用者の工賃アップにつながる良い商品をと検討を重ねた結果、生まれた商品がサツマイモの新種「すいおう」を使ったお茶でした。2008年に「よかつ茶」として販売を開始。

翌年、酵素を混ぜた土つくりのお陰で「すいおう」に虫が付きにくく、生産量も上がりました。また、お茶の加工業者さんも製造工程に改良を重ねた結果、色・香り・味が一段とアップ。営業・企画部長の釜谷幸人さんは「利用者のみんも20工程の内、蔓切り、お茶加工以外の18工程はできるようになって、工賃アップの励みになっています。」と語ってくれました。2010年9月に「翠王茶」としてリニューアル発売し、地元の志免町商工会認定ブランド「しめたもん」に選ばれました。西区にある「レストランゆすのき」をはじめ中央区の「ときめきショップ」がありがた屋「糸島の二にぎやかな春」などで販売中です。



原料はサツマイモの新種「すいおう」の葉茎部分100%

【お問い合わせ】 社会福祉法人 柚の木福祉会

■事業区分[障がい者福祉] ■住所 福岡県糟屋郡志免町大字吉原688-1 ■TEL 092-936-5427
■FAX 092-936-5430 ■URL <http://www.yuzunoki.or.jp> ■メール non@trio.plala.or.jp